

高次脳機能障害者の 復職支援とアセスメント

障害者職業総合センター職業センター
開発課 職業準備訓練係

本日の内容

実践報告書No.40

「高次脳機能障害者の復職における
アセスメント」（令和4年3月発行）のご紹介

※ 高次脳機能障害者の職場復帰支援において
アセスメントから事業主との調整にいたる一連
の支援に関わる技法とツールを紹介

目次

1. 技法開発の背景
2. 高次脳機能障害者の職場復帰支援の流れ
3. 職場復帰支援におけるアセスメント
4. 支援方針の検討
5. まとめ

1. 技法開発の背景

技法開発の背景

●職場復帰支援の課題点

- ①高次脳機能障害の症状や状態像の多様さ、個別性、複雑さ、見えにくさ
- ②支援課題が多方面にわたる
- ③限られた期間の中での支援



●アンケート結果（地域障害者職業センター、関係機関）

「高次脳機能障害のアセスメントや自己理解の促進に関する支援技法を開発してほしい」

「職場復帰支援の手続きをわかりやすく示してほしい」

2. 高次脳機能障害者の職場復帰支援の流れ

高次脳機能障害者の職場復帰支援の流れ

対象者（休職者）

①障害特性を整理し、職業生活上の課題について理解を深める

②生活リズムを整える、健康を管理する、通勤の練習をする等

③課題への対処策（補完手段）の習得を図る

④復職後の職務に必要な作業遂行力の向上を図る

⑤職場に依頼する配慮事項を整理する

情報交換

事業主

①対象者の障害特性と就労上配慮が必要なことを確認する

②職務や配置、労働条件を検討する

③復職を想定している部署に障害特性や必要な配慮を説明する

③ 復職部署に障害特性や必要な配慮を説明する

(リハビリ出勤)

事業所にて復職可否の判断

復職

在宅生活の安定

医学的リハビリテーション

受障

職場復帰支援における支援ツールの紹介

アセスメント

- 障害特性を整理する

- 職業生活上の課題について理解を深める

特性チェックシート
特性チェックシート簡易版

高次脳機能障害者の
職場復帰支援アセスメントシート

病院からの神経心理学的検査の結果
(神経心理学的検査の見方)

支援方針の検討

ケースフォーミュレーション

職業前訓練

- 生活リズムを整える、健康を管理する、通勤の練習をするなど
- 課題への対処策(補完手段)の習得を図る
- 復職後の職務に必要な作業遂行力の向上を図る

対処策リスト255

事業主との調整に向けた準備

- 職場に依頼する配慮事項を整理する

リファレンスシート

事業主との調整

事業主のための職場復帰
に関する参考資料集

高次脳機能障害者の職場復帰に向け
準備を進める事業主の皆様へ(リーフレット)

事業主

- 休職者の障害特性と就労上配慮が必要なことを確認する
- 職務や配置、労働条件を検討する
- 復職を想定している部署・復職部署に障害特性や必要な配慮を説明する

3. 職場復帰支援におけるアセスメント

高次脳機能障害 特性チェックシート

高次脳機能障害 特性チェックシートについて

【チェックシートの目的】

このチェックシートは高次脳機能障害について、様々な特性が職業生活にどのように影響しているかを全体的に把握するためのものです。
 特性別に項目を分類していますが、専門的に判定をしようとするものではなく、多様で個人差が大きく、とらえにくいと言われる高次脳機能障害の特性を、具体的な職業生活場面に応じて整理し、支援の方向性や手立てを考えるヒントを得ようとするものです。

【回答の仕方】

それぞれの項目を見て、普段の職業生活のなかで受障によって生じたと思われることについて、「はい」、「ときどき」、「いいえ」の3つから1つを選び回答してください。
 現時点で、自分のことをどのようにとらえているかを教えてください。正しいとか、間違っているということはありませんので、思ったとおりに教えてください。
 項目の意味がわからないときには、空欄のままでもかまいません。

【留意して頂きたいこと】

高次脳機能障害は、障害の内容や症状の現れ方が非常に多様であり、このチェックシートの項目でその全てを網羅している訳ではありません。
 ご自身で障害の特性を把握したり、ご自身と家族など周りの方との障害認識の違いを確認するための補助的手段として活用いただけます。
 なお、ご自身の症状等の専門的な判定については、主治医や医療機関にご確認ください。

【その他】

特徴的な項目のみ抜粋した簡易版もありますので、適宜ご利用ください。

記入日	
氏名	
記入者氏名 (対象者と記入者が別の場合)	(対象者との関係:)

高次脳機能障害 特性チェックシート (一部例)

下記の障害特性について自分に当てはまるかどうか、次の三択で回答してください。

主な症状	注意を向けるべき対象に適切に注意を向けること(選択性)や注意を長時間維持することが難しい(持続性)。 複数の対象に同時に注意を払うこと(分配性)や状況に応じて注意の対象を切り替えることが難しい(転換性)。				
	全般性	何となくぼんやりしていることが多い。	はい	ときどき	いいえ
	選択性	周りの音や声に注意が散って作業ができない。	はい	ときどき	いいえ
注意障害	持続性	1つのことに長く集中して取り組めない。	はい	ときどき	いいえ
⋮					
主な症状	情報を覚えたり、保持したり、必要な時に引き出すことが難しい。				
記憶障害	前向き健忘	受障後に経験したことが思い出せない。 (例：受障後に知り合った人の名前や顔が中々覚えられない)	はい	ときどき	いいえ
	逆向き健忘	受障前に経験したことが思い出せない。 (例：家族や上司の名前を思い出せない)	はい	ときどき	いいえ
	エピソード記憶	発症前の仕事内容や思い出の記憶があいまいである。	はい	ときどき	いいえ
⋮					

注意障害

記憶障害

遂行機能障害

半側空間無視

失認

失行

易疲労

気づき

失語

社会的行動障害

高次脳機能障害 特性チェックシート

【活用のねらい】

- ◆ 高次脳機能障害の症状を、職業生活での具体的な行動レベルの困難さと結び付けて整理する
- ◆ 対象者の障害特性に対する自己理解を深めるための相談ツールとする
- ◆ 障害特性の具体的な現れ方を事業主に説明するための資料の材料となる
- ◆ 具体的な対処策や環境調整の工夫を検討するときの手がかりとする

※ 行動レベルの困り感を確認するもの。

医療的診断ではない。

高次脳機能障害者の職場復帰支援 アセスメントシート

1 治療・リハビリの経過を整理しましょう。

〈1〉高次脳機能障害が発症した時の状況、受障した時の状況を整理しましょう

高次脳機能障害の発症原因	・脳卒中（脳出血、脳梗塞など） ・頭部外傷 ・脳腫瘍 ・脳炎 ・低酸素脳症 ・その他（ ）
発症日・発症年齢	年 月 日（ 歳）
発症時の状況	
高次脳機能障害診断	・あり（診断日： 年 月 日） ・なし
神経心理学的検査（知能検査、記憶検査など）の結果	・あり（ ） ・なし

高次脳機能障害
症状

2 職場復帰に向けた情報を整理してみましょう。

〈1〉職場復帰の手続きについて記入してください。（分かっている範囲で構いません）

退職開始日	年 月 日	退職期限	年 月 日 まで		
退職期間	年 月 日 ~ 年 月 日（ 年 ヲ月間）				
現在の状況	・有給休暇 ・病気欠勤 ・退職 ・その他（ ）				
職場復帰にあたっての 事業所担当者	窓口の優先順位	氏名・役職	連絡先	健康情報開示	備考
	人事担当			可 ・ 否	
	健康管理室			可 ・ 否	
	上司			可 ・ 否	

4. 支援方針の検討

ケースフォーミュレーションとは

- ◆ 収集した多様な情報を統合しながら支援課題を明確化し、介入方法を組み立てる方策
- ◆ 複雑な情報を図式化することで、情報をまとめ、整理し、解決すべき支援課題や取り組むべき支援方針の見立てる

高次脳機能障害者の職場復帰支援では、個人要因及び環境要因が関わる多面的な支援課題が考えられ、包括的なアプローチの検討が必要となるため、ケースフォーミュレーションの作業は重要

情報整理シートと ケースフォーミュレーションシート

情報整理シート

支援課題の明確化

- ◆ アセスメントで得られたさまざまな情報を項目ごとに取りまとめる
- ◆ 項目ごとに支援課題を検討する

ケースフォーミュレーションシート

支援方針の検討

- ◆ 情報整理シートで明確化した項目ごとの支援課題に対して、支援課題に影響を及ぼす要因（環境要因と個人要因）の仮説を立て、支援方針を検討する

事例紹介

Aさん（男性 50代）

障害状況：右上下肢機能障害

高次脳機能障害

（失語症、軽度の注意障害）

B事業所：ガス、排水衛生設備工事

退職前の業務：総務事務（保安書類の取りまとめ、監督官庁への届け出等）

《演習》

体験～支援課題の検討～

支援課題について、支援方針を検討してみましよう。

- ①支援課題の中から、支援方針を検討したい内容を選び、支援課題に書き込みましよう。
- ②支援課題に影響を及ぼしたり、活用できそうな環境要因、個人要因を書き出ましよう。

(本来であれば話し合いながら検討していきますが…)

- ③支援方針を立ててみましよう。

対処策リスト 255

注意障害

注意を向けるべき対象に適切に注意を向けることが難しい。注意を長時間維持することが難しい。複数の対象に同時に注意を払ったり、状況に応じて注意の対象を切り替えることが難しい。

自己対処の工夫

刺激の統制

- 目の前に、必要な物だけ準備する。視界にはいる余分な刺激を減らす。
- 画面の動きや物音に注意がそれないように、作業台を壁側に向けたり、パーテーションを使い視界を遮る。

記憶障害

物の置き場所を忘れる、新しいできごとを覚えられない、同じことを繰り返し質問するなど、情報を覚えたり、保持したり、必要な時に引き出すことが難しい。

自己対処の工夫

整理整頓

- 道具や物の置き場所を一定の位置に決めていつも同じところに戻す。
- 覚えなくてもその場で見てわかるように、箱や引き出しにラベルを貼る。
- 場所がわからなくなる場合は、目印や矢印をつける。
- 物を探すときは、いつも同じ順番で探すようにする。



道具や物を置く場所を決める

外的補助具の活用

- 外的補助具を活用する。(メモリーノート、ふせん、手帳書、アラーム、タイマーなど)
- メモ用紙を机の上に置いておく。
- 携帯電話、スマートフォンのスケジュール機能やリマインダー、ボイスメモなどを活用する。
- 重要なポイントや数字はあらかじめメモにして報告する。
- 電話の内容はメモに取り、聞いた内容を復唱して確認する。
- 腕時計や卓上時計で日付が表示されるタイプのものを用意し、いつでもそれを参照する習慣をつける。
- その日に起こったことを日記に書き、日記を読み返す習慣をつける。



メモリーノート

- スケジュールや作業手順などの情報管理にメモリーノートを活用する。
- スケジュール、Todoリスト、重要メモなど、どこに何を書くかを明確にして共有する。

ヘッドホンの騒音をカットするノイズキャンセリングヘッド
アラーム、タイマー、ルーラー、書見台、拡大鏡、老眼

下線付きルーペにより注目する箇所を強調する。

ることで、どこまで作業を行った



ロールふせん

認する。

利用し、入力データと音声を用



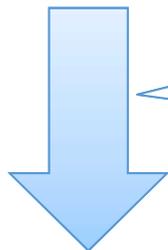
リファレンスシート

特性チェックシートの記載内容や観察結果などをもとに
 障害特性とその対処手段、事業主に理解・配慮を求めることを取りまとめ
 事業主や関係機関との情報共有に活用。

リファレンスシート		○…はい △…ときどき ×…いいえ		○…伝える △…検討中 ×…伝えなくて良い		月 日作成Ver	
No	特性チェックシートで確認された特性	どの程度あてはまるか		会社に伝えるかどうか		対象者と職業センターで整理した項目	
		1回目	2回目	1回目	2回目	対処手段	周囲に求める配慮、理解してほしいこと
1							
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							

リファレンスシート 記入例

話す	言葉が出づらかったり、言いまちがえをする。	はい	ときどき	いいえ
	「えーっと」と言いよどんだり、「あれ」、「それ」や回りくどい表現になる。	はい	ときどき	いいえ
	同じ言葉でも、その時々で言えたり言えなかったりする。	はい	ときどき	いいえ
	錯語がある。(例：机を見て、椅子と言うなど)	はい	ときどき	いいえ



- ①チェックした項目をリファレンスシートに書き出す。
 ②対処手段、周囲に求める配慮、理解してほしいことを検討する。

リファレンスシート

○…はい
 △…ときどき
 ×…いいえ

○…伝える
 △…検討中
 ×…伝えなくて良い

〇月×日作成 Ver

特性チェックシートで確認された特性	どの程度あてはまるか		会社に伝えるかどうか		対象者と職業センターで整理した項目	
	1回目	2回目	1回目	2回目	対処手段	周囲に求める配慮、理解してほしいこと
言葉が出づらかったり、言いまちがえをする	○	○	○	○		言いまちがえは指摘してほしい。
「えーっと」と言いよどんだり、「あれ」、「それ」や回りくどい表現になる。	△	○	○	○	仕事でよく使う言葉は「単語カード」を作って机の上に置き、確認できるようにする。	言葉に詰まっていたら、声をかけてほしい。 (例：「○○のことですか？」など)
同じ言葉でも、その時々で言えたり言えなかったりする。	○	○	○	○		特に人の名前は言えたり言えなかったりする。 →これも伝えることとする。
文章を書くときに、助詞(てにをは)など、文法的なあやまりが生じる。	△	△	△	○	WordやExcelなどの校正機能を使う。	可能であれば書類のダブルチェックをお願いしたい。
漢字が思い出しにくい。	△	△	△	×	スマートフォンの音声入力と漢字アプリを使う。	

3 事業主支援について

事業主のための職場復帰に関する参考資料集



事業主と具体的に職場復帰支援を進める際に、事業主が取り組むことが望まれる内容や復職事例について情報提供するもの



事業主から職場復帰支援を依頼された時に、職場復帰支援の流れや事業主が準備すべきことを説明するためのもの

高次脳機能障害者の職場復帰に向けて準備を進める事業主の皆様へ
(リーフレット)

本日のまとめ

【高次脳機能障害者の職場復帰支援】

①アセスメントを実施

(特性チェックシート、アセスメントシート、神経心理学検査の結果)



②支援方針の検討

(ケースフォーミュレーションシート、対処策リスト255、リファレンスシート)



③事業主との調整

(参考資料集、リーフレット)

実践報告書(CD付)はご要望があれば、送付することができます。

お問い合わせ先：職業センター企画課調整係 (043-297-9043)

※アンケート調査にもご協力をお願いします。

ケースフォーミュレーションシート

環境要因

【家族】
・妻・子2人
・家族の理解・サポートは良好。

【地域生活】

【その他】

【職場】
・事業所は雇用継続を前提として考えている。
・身体面に配慮した職場環境の整備が必要。

【サポート機関】
・E病院リハ科(F医師・ST)

【原因となる疾患・外傷など】

脳出血(左被殻)

【支援課題】

【支援方針】

個人要因

【認知面】
●失語症
・コミュニケーションは口頭で実施。
・文字の読み取りは可能。
・PCでの文字入力は、キーボードで入力することが難しい。

【感情】
・本人はあまり不安を感じていない。

【その他】
・午後は疲労が溜まってくる。

【身体面】
●右上肢機能障害
・左手に利き手交換、右手は補助種。感覚鈍麻有り。
・PCは左側に機器を配置して、独力で作業可。

【障害認識】
・特性チェックシートでは、「言葉が出づらかったり、言いまがえをする。」をはじめ多くの失語症の項目で「はい」と回答。

事例情報（情報整理シート）

属性情報	
氏名・年齢	Aさん（5X歳）
事業所名	B事業所
住所	C県D市
家族状況	妻、子供2人（高校生、中学生）
移動手段	公共交通機関利用可 車の運転は不可
支援制度	介護保険
収入状況	傷病手当金
支援課題	
・現在の収入水準を確保したいとの希望	

高次脳機能障害（手帳 なし）	
原因疾患等	脳出血（左被殻）
受傷年月日	20XX年X月
受傷時年齢	5Y歳
検査結果 （医療機関から取得）	TMT-J partA:45秒 RBMT:SPS 23/24 スクリーニング 11/12
症状等	失語症 ごく軽度の注意障害

障害特性 （特性チェックシートおよび、作業場面の観察から把握）	<ul style="list-style-type: none"> ・家族とのコミュニケーションは時間はかかるが主に口頭で行っている。 ・人の名前を言いまちがえてしまうことが多い。 ・文字・文章を読むことは概ね可能。 ・PCの文字入力は、キーボードで入力することが難しい（特に擬音や擬音）。音声入力やアプリケーションの活用経験はない。 ・ワード、エクセルの操作方法を忘れてる。 ・書類の照合、入力内容のチェックなどは、時間がかかるが正確に行うことができる。
------------------------------------	---

支援課題	
<ul style="list-style-type: none"> ・PC入力スキルの回復 ・言語コミュニケーションの対処策の習得 ・事業主に求める配慮の整理 	

生活習慣・健康状態	
生活リズム	・23時頃就寝、7時頃起床。生活リズムは安定しており、ほとんど乱れることはない。
食事	・毎日30分～1時間ほどの散歩を行っている。
運動	・ADL自立し、身の回りのことは自分でできている。
睡眠	
飲酒・タバコ	
その他	
支援課題	
・特になし	

ストレス・疲労	
ストレス状況	<ul style="list-style-type: none"> ・受傷前に比べて周囲の雑音が気になるようになった。 ・POMSの結果には特に問題は見られない。
ストレスサイン	<ul style="list-style-type: none"> ・午後になると疲れた様子が見られる。 ・時間が長くなると、作業のミスが増加する。
ストレス対処	<ul style="list-style-type: none"> ・以前はドライブが趣味だったが、受傷後はできなくなってしまった。現在は特に趣味はなく、余暇はテレビを見て過ごすことが多くなっている。
支援課題	
<ul style="list-style-type: none"> ・疲労のコントロール ・余暇の過ごし方についての検討 	

その他の症状（手帳 2 級）	
身体の状況	<ul style="list-style-type: none"> 右上下肢機能障害 関節可動域:右 upper 肢、右足関節に制限 感覚:右上下肢の表在感覚の重度鈍麻
補装具等	右下肢に短下肢装具を使用
生活習慣病	高血圧、高脂血症
てんかん	なし
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・歩行制限は特になく、散歩では1時間の歩行継続が可能。 ・床の突起や障害物につまづきやすくなっている。 ・感覚鈍麻のために火にかけた鍋に右手が接していても気付かず、火傷してしまうことがあった。 ・右手は補助手レベルで、左手に利き手変換を行っている。時間はかかるが書字は可能。 ・しゃがみこむ動作が難しいため、トイレは洋式トイレが必要。
支援課題	
・本人の身体面に配慮した職場環境の確認が必要	

事業所情報		
休職期限	20YY年Y月	
担当者	総務課長	
復職までの流れ	プログラム終了後、会社に「復職願（会社書式）」と「主治医診断書」を提出。その後、①産業医面談、②人事面談を経て復職が決定。	
休職前の業務	総務事務	
	本人の希望	事業主の意向
復職時期	プログラム終了後、できるだけ早く。	休職期限内であれば本人の意向に合わせる。
勤務時間/日数	できれば最初は短時間勤務が良い。	主治医と産業医の意見に従って決定。
復職部署 復職後の業務	人間関係の良い元部署に復職したい。業務は自分にできる内容であれば何でも良い。	本人にできる業務次第で部署や業務内容、契約条件を検討したい。PC入力ができるれば対応可能な業務が増える。
支援課題		
<ul style="list-style-type: none"> ・本人の身体面に配慮した職場環境の整備 ・対応可能な業務を把握し、職務内容について検討 		

医療情報	
通院先(科・主治医)	E病院リハビリテーション科 F医師
通院頻度	月1回
受診内容	高次脳機能障害に関する経過観察
服薬	降圧剤
現在実施中のリハビリ	ST
過去のリハビリ	OT、PT、ST
支援課題	
・特になし	

サポート体制	
利用中の支援機関	G相談支援事業所
支援内容	相談等
家族関係	送り迎えなどのサポートは妻が行っている。
その他相談相手等	プログラム開始までは、H就労継続支援B型事業所で軽作業を実施していた。
支援課題	
・特になし	

ケースフォーミュレーションシート

〔作成例〕

環境要因

【家族】

- ・妻・子2人
- ・家族の理解・サポートは良好。
- ・高校生、中学生の子供の養育のため、一定の収入を確保したいとの希望あり。

【職場】

- ・事業所は雇用継続を前提として考えている。ただし、正社員として雇用継続するか、パート職員として契約し直すかについては、本人がどのような業務に対応できるかを確認した上で決めたい考え。
- ・正社員での雇用継続の可能性を高めるためにはPCでの書類作成もできることが望ましい。
- ・身体面に配慮した職場環境の整備が必要。

【地域生活】

【サポート機関】

- ・E病院リハ科(F医師・ST)
- ・G相談事業所(デイサービスを利用)

【その他】

【原因となる疾患・外傷など】

脳出血(左被殻)

【支援課題】

対応可能な業務を把握し
職務内容について検討

【支援方針】

- ・音声入力やタッチキーボードなどを試しつつ、対応可能な作業を確認する。
- ・事業主から情報収集を行う。

個人要因

【認知面】

- MWSの結果
- ・作業日報集計や物品請求書作成作業の正答率は高い。
- 失語症
- ・コミュニケーションは口頭で実施。
- ・文字の読み取りは可能。
- ・PCでの文字入力は、キーボードで入力することが難しい。

【身体面】

- 右上肢機能障害
- ・左手に利き手交換、右手は補助種。感覚鈍麻有り。
- ・PCは左側に機器を配置して、独力で作業可。
- 右下肢機能障害
- ・歩行に制限はない。1時間程度の散歩が可能
- ・しゃがむ動作は難しい。

【感情】

- ・本人はあまり不安を感じていない。

【障害認識】

- ・主治医意見書に「理解・認識はできている」との記載あり。
- ・特性チェックシートでは、「言葉が出づらかったり、言いまちがえをする。」をはじめ多くの失語症の項目で「はい」と回答。失語症の症状は理解している。

【その他】

- ・音声入力やアプリケーションの活用経験はない。
- ・ワード、エクセルの操作方法を忘れている。
- ・午後は疲労が溜まってくる。